

# 「もう年だから」と思わない

自分の内なる声が「もう年をとりすぎている。今からでは遅いので、あきらめたほうがいい。そろそろ現役を引退すべきだ」と言ってきたら、年をとってから快拳を成し遂げた人たちの例を思い出そう。

近代美術の巨匠と呼ばれるポール・セザンヌは若いころ絵がほとんど売れず、最初の個展を開いたのは56歳のときだった。

イギリスの外科医ジェームズ・パーキンソンがパーキンソン病を見つけたのは62歳のときだった。

レイ・クロックは59歳のときにマクドナルド兄弟から小さなハンバーグショップの商権を買収し、75歳まで会長を、84歳まで上級会長を務め、世界的企業に育て上げた。

カーネル・サンダースが事業の不振による負債を返済し、ほぼ無一文の状態からワゴン車による行商を開始して、ケンタッキーフライドチキンの成功のきっかけをつかんだのは65歳のときだ。その独創的なレシピは受け入れられるまでに1000回以上も断られている。

イギリスの小説家ダニエル・デフォーが名作『ロビンソン・クルーソー』を書いたのは60歳のときだった。

ロナルド・レーガンがアメリカの大統領に就任したのは70歳になる直前だった。

ネルソン・マンデラがアパルトヘイト反対運動で逮捕され、27年間におよぶ獄中生活を經て黒人初の南アフリカの大統領に選出されたのは75歳のときだった。

高齢で快拳を成し遂げた例はそれ以外にもたくさんある。ほんの数例を紹介しよう。

ダイアナ・ナイアド 64歳でキューバからフロリダまで泳いで横断。

ランオルフ・ファイアーズ 65歳で心臓病と糖尿病を克服してエベレスト山に登頂。

ジョン・グレン 77歳で再び宇宙に滞在。

ドロシー・ダベンヒル 89歳で北極に到達。

グラデイス・バリル 女性として最高齢の92歳でマラソンを完走。

ファウジヤ・シン 世界最高齢の100歳でマラソンを完走。

今度、自分の内なる声が「もう年をとりすぎている」と言ってきたら、再びこの項目を読んでほしい。締めくくりにイギリスの哲学者フランシス・ベーコンの名言を紹介しよう。

「私はけっして高齢者にはならない。なぜなら、私にとって、高齢とはつねに現在の年齢より15歳年上を意味するからだ」